

しつづ、現代のマクロ理論の最新の成果を各所に盛り込む構成となっている。まず、第1章の景気循環論に関するサーベイに続く4つの章では、履歴現象の数理モデルを説明(2章)した後、日本的雇用慣行を埋没費用としての教育支出の重要性から統一的に説く(3章)、中心となる4章では、人的資本蓄積に焦点をあてた教育支出と労働時間の決定問題を同時に考慮した一般均衡モデルが分析され、第5章では、第4章の理論を離職・求職行動を含んだモデルへと拡張するための理論的スケッチがなされる。履歴現象というテーマは第8章では、産業構造が為替レートの大幅な変動にもかかわらず強い固定性を持つ、という企業の参入・退出というDixit-Stiglitzの本来のテーマに沿って現われる。国際マクロ理論のトピックスを取り扱う第6・7章では、為替レートや貿易バランス、資本移動といった経路を通じた景気循環の国際的波及の側面が分析され、さらに第9章では、貸し手一借り手間の情報の非対称性による景気循環のマネタリーな側面が分析される。

全体として、現代のマクロ理論の主要テーマと理論ツールがあますところなく説明されるだけでなく、随所に日本経済を例とした「理論の切れ味」も鮮やかに示されることで、秀れた研究書となっている。但し、既に大竹文雄氏の書評(季刊理論経済学 45(5) 1994年12月)が指摘するように、国際マクロと企業金融を扱った3つの章と前半部分の間の関連性がやや弱く、履歴現象に的を絞るといった工夫もあり得たように思われる。

2.

本書の最大の主張は、既に述べたように、日本においては、教育支出の多くが埋没費用となり、そのため、雇用量(人数)に履歴現象が生ずる、というものである。その背後には「情報生産に関する技術の多く(において)…投入される資源が莫大で労働者の保有する人的資本の中核をな(し)、…(しかも)陳腐化の速度が速く勤務の「継続性」が決定的に重要である」(p.179)という認識がある。

しかし、労働経済の実証研究の立場からみると、この認識(仮説)は、実証的根拠に欠ける。日本における(企業内)教育費用がどの程度のもので、いつどのように誰によって負担されるか、我々の知識はほとんどゼロに近いし、ましてや、蓄積される技能や知識がどのような速度で陳腐化するのか、それは他

大 瀧 雅 之

『景気循環の理論』

—現代日本経済の構造—

東京大学出版会 1994.1 viii+451 ページ

1.

本書は1994年度の日本経済図書賞を授賞した、理論マクロ経済学の研究書であるが、一方では副題にもあるように、日本のマクロ経済、特にその動学的特徴に関して明確で新鮮な主張をもったモノグラフでもある。

内容を簡単に紹介すると、全体の約半分を占める4章が労働市場における履歴現象の解明に、そして3章が景気循環の国際マクロ・金融的側面の分析にあてられており、日本経済の動学的特徴を強く意識

の国に比べてどの程度早いのか、根拠のある推測は現在不可能である。また、第4章でおこなわれる分析にとって、この仮説がどの程度クリティカルであるかについても疑問が残った。著者は、履歴現象の発生にとって重要なのは、労働者の保有する技術が企業固有のものか一般的なものかではなく、解雇後に再び労働者を雇用する際の再教育費用の大きさだとするが、その当否は企業が経験するショックの種類や人員構成によるのではないだろうか？著者のロジックは、たとえ人的資本が企業特殊的でも、再教育に費用がかからないなら、将来、同一企業の労働需要が拡大すれば再雇用され、(解雇の)履歴現象は起こらないというものである。しかし、企業を構成する人的資本は多様で常に変化しており、総雇用人数さえ元にもどれば、解雇されていた従業員を再雇用するとは限らないだろう。人材や技能が同一企業では単一で不変であり、新しい人員の補充が全くないといった強い仮定が成立しない限り、人的資本の企業特殊性はやはり履歴現象に重要な影響を持つと

考えるほうがむしろ自然ではないだろうか？

無論、マクロモデルとして、単純化の仮定はそれ自体としては批判されるべきではない。むしろ、評者の抱く疑問は、マクロの履歴現象の解析の性質がこのような仮定にどの程度依存しているかである。但し、評者は、本書の真価は必ずしも埋没費用として教育支出の大小に関する事実判断によって左右されないと考える。第4章の真価は、履歴現象を含むマクロ一般均衡モデルの数理分析の厳密性とその説得力にあり、その点では第1・2章のサーベイ的 성격の強い部分でも著者の分析力が見事に発揮されており、特筆に値する。そしてまた、理論家の立場から、日本経済の現実にたいする鋭い仮説と主張を提示する著書は、それ自体真に貴重でもある。本書が研究者のみならず、広く学部上級生・大学院生により読まれ新たな刺激を与える事を望んで小文の結びとしたい。

[有賀 健]